

## 地方独立行政法人山口県立病院機構評価委員会（第46回）の概要

### 1 開催日時

令和6年8月9日（金） 10:00から11:10まで

### 2 開催場所

山口県庁本館棟4階 共用第4会議室

### 3 出席者

評価委員会委員： 5人  
事務局： 4人  
法人： 15人

### 4 内容

(1) 県健康福祉部理事挨拶

(2) 議事

#### ① 報告事項

- 事務局から第45回評価委員会の概要について、資料1により報告。

#### 質疑応答・意見

なし

#### ② 令和5年度における法人の業務の実績に関する評価（素案）について

- 事務局から資料2～資料4により説明

#### 主な質疑応答・意見

〔 ●委員 ○事務局 □法人〕

- コロナウイルスが5類に移行してからも、コロナウイルス患者の対応で医師や看護師が忙しい状況は変わらず、ベッドコントロールが厳しいと聞いているが、数年後にコロナウイルスの影響がなくなるといった見通しはあるのか。
- 影響については、インフルエンザのように、長期的に続くものと考えており、病床稼働率を上げて収益を確保していくため、一般病床の個室の運用を増やす取り組みを進めているところ。
- ロボット手術支援機器の導入にあたり、診療報酬の基準上の問題から適用のある疾患を増やしていかないと黒字化が難しい面があると感じているが、その点をどのように考えているか。
- ダビンチを用いたロボット手術の適用について、診療科範囲を広げているところだが、材料費の問題もあるため、内視鏡等を用いた同等の診療行為を組み

合わせながら、収益確保に向けた検討を行っているところ。

- 外部委託による未収金の回収状況はどうか。また、未収金の発生を事前に防ぐ策は講じているのか。
- 平成28年度の外部委託を行う前と比較すると、過年度分は徐々に減少してきている。また、未収金の発生防止に向けては、入院時に患者が保証人等を選択して契約を結ぶことで、債権・債務関係を明確にすることとしている。
  
- 評価書（素案）で評点が3点の項目について、問題点が記載されている箇所と、そうでない箇所があるのは何故か。
- 項目の中には様々な評価要素が含まれ、評点が3点の項目の中でも濃淡があるところ、中期計画に定める指標のうち、評点が1点となったものなど、今後の課題として記載すべきものを評価書に反映させている。
  
- 周産期医療については、一部指標の評点が低くなっており、少子化が要因とされているが、他の要因がないとすれば、今後、目標値の下方修正は予定しているか。
- 今後の推移等を見て、必要に応じて検討することとしたい。
  
- 周産期医療に関する記載に、24時間365日体制で患者を受け入れるとあるが、受け入れの体制はどうか。
- 総合周産期母子医療センターでは、記載のとおり当直医を毎日配置して24時間365日体制で対応している。しかし、限られた人員で対応しており、院内で複数の妊産婦の処置をしている場合などもあるため、その場合は、県全体でのネットワーク体制で受入対応を行っている。

#### 評価委員会の意見のとりまとめ

令和5年度における法人の業務の実績に関する評価に係る評価委員会の意見については、「県の評価（素案）は適当である。」として承認された。

#### (3) その他

- ・ 次回の評価委員会は、来年度の予定。